

巻頭言

「人間福祉学研究」の創刊にあたって

関西学院大学人間福祉学部長 芝野 松次郎

2008年4月、関西学院のキリスト教主義教育とスクールモットーである“Mastery for Service”の理念にふさわしい新しい学部と研究科が誕生した。人間とその生活環境である社会とを一体としてとらえ、さまざまな生活課題を専門的に、あるいは市民として解決できる人材を育成することをミッションとする新たな教育研究の拠点が、120年の歴史と伝統をもつ関西学院に加わったのである。

新学部は、実学を重んじるソリューション志向型の学部である。人間をホリスティックに理解し、その自己実現を具体的に援助できる人材の育成をミッションとする「人間科学科」、地域の問題をグローバルな視点でとらえ、「ビジネス」などを通して市民自らの手で解決することを援助できる人材の育成をミッションとする「社会起業学科」、そして、こうした人間と地域社会との接点に生じるさまざまな生活問題を社会福祉の理念と価値を踏まえソーシャルワーク実践によって解決できる人材の育成をミッションとする「社会福祉学科」という3つの学科で構成されている。これらの学科には共通する特徴として、実践から学ぶための計画的な実習やインターンシップが設けられており、実学を重んじる学部の教育理念を具現している。ただ、こうした実学の重視と、実践から学ぶ仕組みを組み込んだカリキュラムは、地道な研究の成果によって裏づけられたものでなければなら

ない。

新学部と同時に設置された人間福祉研究科は、より高度な専門職の養成をミッションとする博士課程前期課程に加え、研究者、教育者の養成をミッションとする博士課程後期課程を備えもつ。新研究科の母体となった関西学院大学社会学研究科社会福祉学専攻、そしてスポーツ科学・健康科学研究室、産業研究所は、その長い歴史のなかで数多くの研究者を世に送り出してきた。人間福祉研究科は、研究者養成の拠点としてその伝統を継承することになる。

こうした研究者養成のミッションに加え、新研究科に所属する研究者は、人間福祉にかかわる研究領域の発展に寄与し、研究の質を高めるとともに、人間と社会が経験する新たな問題の解決を目指して研究のイノベーションにも貢献することとなる。新研究科に所属する研究者（院生、研究員などを含む）のこうした研究活動の成果が、学部における実学に反映されることになるのである。

このたび創刊された『人間福祉学研究』は、こうした研究成果を公にする場であり、社会に向かって発信する手段である。人間福祉学部および研究科のアカウンタビリティを示す手段であると考えられることもできる。

しかし『人間福祉学研究』は、研究科および学部には所属する研究者の成果発表の場にとどまらない。社会福祉やソーシャルワークなどにかかわる



関西学院大学人間福祉学部・人間福祉研究科開設記念行事より

領域，地方自治や経済，社会起業などにかかわる領域，スポーツ科学・健康科学や精神衛生，スピリチュアリティの研究などにかかわる領域など，人間福祉に関連する幅広い領域の研究者の研究成果を発表していただく場としての役割も果たさなければならないと考えている。日本全土，さらに海外の研究者からの投稿を受け，公平かつ厳密な査読を行って，優れた研究成果を公表していきたいと考えている。そのために学外の多くの研究者のご協力を得て，編集委員会が設けられた。創刊

号は，この編集委員の方々の献身的な尽力と、『人間福祉学研究』に理解を示していただいた研究者の寄稿によって実現したのである。

『人間福祉学研究』の掲載論文が，関連する諸領域の研究の質を高め，量の充実に貢献し，やがて人間の生活と社会のあり方に大きな影響を与える研究誌として認められるようになることを切に期待する。創刊号の刊行にあたって，ひとことの期待を述べて巻頭言の締めくくりとする。